

## 陸平に響く縄文の音色



縄文の森コンサートでの縄文笛つよしさんの土笛演奏

さる10月7日（土）～8日（日）、陸平貝塚公園で「おかだいら縄文フェスタ 2023」が開催されました。

7日（土）は、縄文の森コンサート（主催：陸平をヨイショする会）、8日（日）は体験を主にしたイベントで、秋晴れの陸平貝塚にコンサートや体験を楽しむ人々が訪れました。

今回で23回目となった縄文の森コンサート「大地に響く縄文の音色」は、縄文笛つよしさんの土笛とフルートの演奏。縄文笛さんは、これまで機会あるごとに陸平で演奏していただいております、縄文の森コンサートも今回で3度目のご出演でした。

土笛の音色は、秋晴れの陸平の森に心地よく響き渡りました。縄文笛さんは生まれながらに視力が弱く、現在はほぼ見えないようですが、縄文人が現れてきそうな素晴らしい土笛の演奏とともにお話しも大変面白く、思わず笑いがでる和やかなコンサートでした。俳句や俚謡とコラボするコーナーなどもあり、瞬く間に楽しいひとときが過ぎていきました。

次回の陸平貝塚公園のイベントはゴールデンウィークで、体験イベントを開催する予定です。



# おかだいら縄文フェスタ

## 2023



まが玉作り



作った土笛で縄文笛さんとコラボ



火おこし体験。火がついた！



陸平貝塚見学ツアー。展示室を見学してから遺跡にむかいました。



縄文の森コンサートは陸平の樹々に囲まれた野外ステージでおこなわれました



親子で土器を作り楽しいひととき



縄文クッキーコーナーは  
美味しそうな匂い



“土笛や縄文びとの秋の歌”  
笛の音色のなか俳句や俚謡を披露



# 「美浦かるた」で知るみほの文化財

今回の札は  
「ん」

てんかいち  
天下一  
あさのせんこう  
浅野染工  
えどこもん  
江戸小紋

現在、美浦村で染物業を営んでいるのは唯一、浅野染工場で、染師の浅野榮一氏は小紋染め、なかでも縞染しまぞめを中心に制作をされています。

小紋は字のごとく小さな紋様で、家紋に由来し、江戸時代の武士の正装である袴かまきりから発展しました。

浅野家は祖父の代から染物屋で、当初は藍染めをおこなっていましたが、父・康氏の代から小紋の型染めにかかりました。小紋染めの着物は、遠目には無地に見えるほど非常に細かい紋様が染められています。見た目の派手さがなく小紋の型染めは、型紙の位置をずらしながら反物を染めていきますが、少しの狂いもなく染めていく技術とともに、繊細な型紙を彫る彫師との双方の高度な技術により成り立つ職人技が、見えない部分に詰まっている奥深さがあります。榮一氏が使う型紙はすべて重要無形文化財「伊勢型紙 縞彫」保持者であった故兒玉博氏こどもひろしによる貴重なもので、優れた彫師との関係も見逃せません。榮一氏は2007年「卓越した技能者(現代の名工)」に認定されています。

かつて多くの家で機織りをして、日常生活のなかでもまだ着物を着る機会が多かった頃には、浅野家

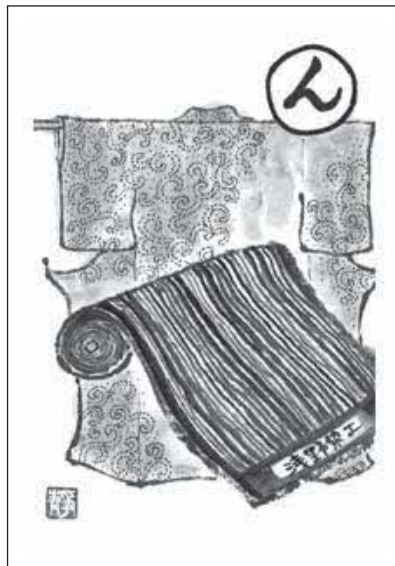
だけではなく、木原や郷中、大谷、八井田などの地区に染物屋がありました。

染物屋は藍染めをおこなう店と、白生地を柄物に染める店とがありました。自宅で染めることもあったようですが、家々により染めてもらう店は大体決まっていたようです。その範囲は美浦村内のほか稲敷市(旧桜川村、旧江戸崎町)や土浦市、千葉県の神崎まで及びました。木綿糸を染めに出す場合は藍染めで、綿から紡いだ糸を持ち込みました。糸を藍に染めてもらうと機織り機で織り、農閑期のうちに野良仕事で着る野良着を仕立てていました。一方、絹で織った白生地は店に持ち込んだり、家々を回ってきた人に頼んだりしていました。いずれも見本帳からどのような柄に染めるかを決めて染めにだしてしました。昔はお嫁に行くときに一生分といわれるくらいの枚数の着物を用意したといえますから、染物屋も身近な存在だったことでしょう。

「美浦かるた」は、共に輝くみほの会(美浦村女性行政推進協議会)が制作した美浦村の魅力を紹介したかるたです。

子育て・教育・図書室↓美浦かるた で検索！

<https://www.vill.miho.lg.jp/page/page001902.html>



※江戸小紋という名称は、1995年に東京の小紋染職人が重要無形文化財保持者に認定されてから使われるようになりました。

※今回は20年ほど前に浅野榮一氏、そして当時70〜90歳代の方々からお聞きした、機織りに関わるお話のなかからご紹介しました。

◆茨城県陶芸美術館において「江戸の粋、極上の縞 浅野榮一の江戸小紋」が12月3日まで開催されています。展示では様々な小紋の紋様の型紙とその型紙で染めた着物や反物を通して浅野氏の技を紹介しています。

お問合せは茨城県陶芸美術館へ。



# 新たな村内遺跡の発掘調査報告書が刊行されました

遺跡のある場所に建造物や道路をつくる等、地中に残されている遺跡が工事により失われる場合、事前に発掘調査がおこなわれ、どのような内容の遺跡かを報告書としてまとめ、記録を残しておきます。

発掘調査をすでに終えている5つの遺跡の発掘調査報告書が刊行されました。これらの報告書はすべて美浦村中央公民館図書室で閲覧、貸出可能です。『ミコヤ遺跡・宮脇遺跡』についてのみ文化財センターで頒布しています。



## 『野中東遺跡』

現在店舗(コメリ)がある場所で、縄文時代と古墳時代の住居の跡が見つかりました。  
(「陸平通信105号」でご紹介。HPで閲覧可能)

## 『大谷貝塚』

みほふれ愛プラザ前の125号バイパス付近の道路整備に伴う調査で、新たに奈良時代にも集落が営まれたことが判明しました。

## 『岸内遺跡』

大須賀津地区の道路整備に伴う調査により、霞ヶ浦湖岸の砂州上における人類の活動の一端が明らかになりました。

## 『ミコヤ遺跡・宮脇遺跡』

現在ゴルフ場のある安中地区にあった陸平貝塚に隣接する遺跡で、両遺跡ともに古墳時代の集落の跡が確認されました。■頒布価格 2,700円

## 梅朝基礎落語

今年の最後も  
落語で楽しく!

- ◆日にち 12月3日(日)
- ◆開演 午後1時30分から
- ◆場所 文化財センター
- ◆出演 好文亭梅朝

※当日、直接文化財センターにお越しください



## 三三門松づくり

自分で作った門松で  
新しい年をむかえましょう

- ◆日にち 12月27日(水)
- ◆開演 10時~12時
- ◆場所 文化財センター
- ◆定員 8名(先着)
- ◆体験料 500円
- ◆申込み 文化財センター  
(12月13日から受付)



## 文化財センター臨時休館のお知らせ

文化財センターは空調設備更新工事のため、下記期間、休館になります。文化財業務はおこなっていますが、工事に伴い職員通用口にて対応をさせていただきます場合があります。

ご不便をおかけいたしますが、ご理解の程よろしくをお願いいたします。

**【臨時休館】令和5年12月28日(木)~令和6年2月5日(月)**

※月曜日、年末年始(12月29日~1月3日)、1月9日は文化財業務もお休みになります

◆お問合せは、文化財センターへ◆ ☎029-886-0291